

三井物産環境基金助成事業
「大学生と考える、持続可能な八郎湖流域のための環境学習プログラム開発プロジェクト」
大学生インタビュー調査報告書

実施・作成者：特定非営利活動法人はちろうプロジェクト

1. 事業概要（抜粋）

【内容】

「はちプロ学生部」に参画する、秋田公立美術大学の学生 3 人を対象としたインタビュー調査を行う。
インタビュー内容から、八郎湖流域の地域づくりに若者が参画してもらうための課題を明らかにする。

・秋田公立美術大学・・・2022年2月10日（木）14:00~15:30

当法人の教材「はちりバ〜HACHIRO REVIVAL〜」開発事業で多数の学生に協力してもらった。

「地域プロジェクト演習」という授業の一環で、八郎湖の活動に参加してもらっている。

※「はちプロ学生部」について

秋田県立大学・秋田公立美術大学などの、八郎湖に関心を持つ有志学生によるグループ。LINE グループで情報共有している。2017・2018年度にゲーム教材開発を行ったことから始まり、2019年度から本格的に活動開始している。

【インタビュー内容】

- (1) 氏名、大学の所属、学年、出身地、大学で頑張っていること（学内・学外問わず）を教えてください。
- (2) 八郎湖に興味を持った時期と、そのきっかけを教えてください。
- (3) はちろうプロジェクトについて知ったきっかけ、学生部に参画してみようと思った理由を教えてください。
- (4) ここまで参画してきて、八郎湖にどんな魅力があると思いますか？その魅力を活かす若者向けの活動はないでしょうか？
- (5) これから皆さんの同年代や後輩の学生たちに、八郎湖での活動に関わってもらうためには、何があるといいと思いますか？
- (6) 現時点で、大学卒業後の進路にはどんな希望がありますか？それは、八郎湖の活動に関わってから変化したところがありますか？
- (7) ここまでのインタビューを通して気付いたこと、話せなかったことなどがあれば、教えてください。

【参考：2021 年度「はちプロ学生部」の主な活動】

※新型コロナウイルス対策を取って実施しました。

No.	実施日	活動名	参加メンバー人数	活動概要
1	4/18(日)、 25(日)	山田の苗作り手伝い	1人 2人	潟上市昭和豊川山田地区の田んぼの苗作りの作業を手伝った。
2	5/6(木)、 7(金)	(Zoom) 学生の意識調査	3人 2人	八郎湖の活動開始前の段階での、学生の意識調査を行った。 ※事後調査は、本インタビュー実施時に合わせて行った。
3	5/8(土)	「八郎潟モグリウム」見学会	10人	「八郎潟モグリウム」水槽設置場所を全て見て回り、干拓博物館や防潮水門も見学した。
4	5/22(土)	「はちプロ農園」種まき	1人	山田地区に借りた畑に、大豆やジャガイモを植え付けた。
5	5/23(日)	秋田公立美術大学モグリウム設置+ 美大生環境学習、モグリウム見学会	12人	美大にモグリウムを設置した。その後、美大生は環境学習プログラム体験、それ以外はモグリウム見学に分かれて活動した。
6	5/28(金)	森岳・下岩川小学校 4 年生 出前授業サポート	1人	出前授業をスタッフとしてサポートした。
7	6/3(木)	五城目小学校 4 年生 出前授業サポート	1人	出前授業をスタッフとしてサポートした。
8	6/11(金)	天王小学校 4 年生 出前授業サポート	1人	出前授業をスタッフとしてサポートした。
9	6/24(木)	天王小学校 4 年生 出前授業サポート	1人	出前授業をスタッフとしてサポートした。
10	6/14(月)	【秋田県立大学】八郎湖ブレ生きもの 調査	4人	専門家の指導を仰ぎ、秋田県立大学生の八郎湖の生きもの調査を行った。
11	6/19(土)	【鶴岡市自然学習交流館ほとりあ】 モグリウム紹介講座	1人	同交流館の講師に招かれた講座を、サポートしてもらった。
12	6/20(日)	「はちプロ農園」土寄せ	1人	草取りを兼ねた土寄せ作業を行った。
13	6/26(土)	【立志塾 RISE】環境学習講座	1人	同学習塾が主催する講座に参加した中から、1名がメンバーに入った。
14	7/7(水)	生態系公園モグリウム設置	1人	大潟村生態系公園にモグリウムを設置した。
15	8/1(日)	八郎湖子ども交流会	3人	小学生が集まる交流会のスタッフとして、生きもの調査の指導や生きものものの解説などを担当してもらった。
16	8/7(土)	【秋田県立大学】八郎湖生きもの調査	5人	専門家の指導を仰ぎ、秋田県立大学生の八郎湖の生きもの調査を行った。
17	8/17(火)	馬場目川上流 沢登り	2人	八郎湖に流れ込む川の上流部に行き、汚れる前の水を体験した。
18	9/11(土)	【あきた ESD ネットワーク】 プロジェクト WILD 講習会	4人	プロジェクト WILD の資格を取る講習会に参加した。新型コロナの増加に伴い、オンライン形式に変更となった。
19	9/17(金)	【チーム 86GO!】八郎潟・八郎湖地 域資源発掘ワークショップ①	1人	八郎潟・八郎湖の地域資源発掘をするワークショップに参加した。
20	10/9(土)	プロジェクト WET 講習会	3人	プロジェクト WILD の資格を取る講習会に参加した。会場は生態系公園を借用した。
21	10/10(日)	学生部交流会	3人	モグリウムを見て回り、八郎湖や草木谷で生きもの調査を行う交流会を実施した。
22	10/26(火)	【チーム 86GO!】八郎潟・八郎湖地 域資源発掘ワークショップ②	8人	八郎潟・八郎湖の地域資源発掘をするワークショップに参加した。
23	10/30(土)	【秋田県立大学】学祭モグリウムブ ース出展	5人	学祭で、「八郎潟モグリウム」を PR するブースを出展した。
24	11/3(祝)	【秋田県立大学】八郎湖生きもの調査	3人	専門家の指導を仰ぎ、秋田県立大学生の八郎湖の生きもの調査を行った。
25	11/14(日)	【チーム 86GO!】現地調査	6人	八郎潟・八郎湖の地域資源発掘をする現地調査を行った。

26	11/22(月)	県立大メンバーインタビュー	1人	出前授業スタッフをした県立大生にインタビューした。
27	11/30(火)	【チーム86GO!】八郎潟・八郎湖地 27域資源発掘ワークショップ③	6人	八郎潟・八郎湖の地域資源発掘をするワークショップに参加した。
28	12/23(木)	【チーム86GO!】八郎潟・八郎湖地 域資源発掘ワークショップ④	7人	八郎潟・八郎湖の地域資源発掘をするワークショップに参加した。
29	1/19(水)	出戸小学校4年生 出前授業サポート	1人	出前授業をスタッフとしてサポートした。
30	2/10(木)	美大生メンバーインタビュー	3人	美大生主要メンバー3名にインタビューをした。
31	2/15(火)	リンゴの枝剪定体験&ワカサギ釣り練習会	5人	「田舎ぐらし大学みたね」の工藤氏に依頼し、冬の八郎湖体験をさせてもらった。
32	2/28(月)	井川義務教育学校3年生 出前授業サポート	2人	出前授業をスタッフとしてサポートした。
合計(延べ人数)			111人	



↑5/8 モグリウム見学会



↑5/23 美大モグリウム設置



↑10/9 プロジェクトWET 講習会



↑2/15 リンゴの枝剪定体験&ワカサギ釣り練習会

2. 秋田公立美術大学 学生インタビュー概要

【日時】2022年2月10日（金）14:00~16:00

【会場】秋田県立大学 教室

【インタビュアー】

NPO 法人はちろうプロジェクト 副代表理事 谷口 吉光（秋田県立大学教授）、

※以後、「はちプロ」と略す 事務局長 鎌田 洋平

（オブザーバー） 秋田公立美術大学 菅原 香織 准教授

【対象者】



氏名	三浦 仲人 さん	工藤 美羽 さん	進藤 珠里 さん
学年	1 年生	1 年生	2 年生
出身地	秋田市	青森→秋田市	秋田市
はちろうプロジェクトとの 関わり	2021 年～	2021 年～	2021 年～

※補足：3 人とも、秋田公立美術大学の「地域プロジェクト演習」の授業の一環として、はちプロの活動に参加。前期は「八郎潟モグリウム」の活動を通してロゴマークの制作、後期は「チーム 86GO！」の活動に参加し八郎潟・八郎湖のマップ・カタログ制作などに協力していただいた。

【インタビュー内容】

(1) 氏名、大学の所属、学年、出身地、大学で頑張っていること（学内・学外問わず）を教えてください。

三浦：三浦仲人です。1 年生です。出身は秋田県秋田市です。

このあいだ、授業でグループワークをやったのですが、その授業で「ピタゴラススイッチ」を作りました。決まった球を 15 秒かけてゴールまで運ぶという課題で、泊まり込みで作りました。

鎌田：何人くらいでやったのですか？

三浦：4 人ですね。これはけっこうがんばりました。

工藤：学年は1年です。生まれが青森ですが、今は秋田市に住んでいて、秋田市に住んでいるほうが1年くらい長いです。青森は小学校3年生まで。4年生から秋田に来ました。

今年は友だちと展覧会をやりたいと思って、作品制作をがんばろうとしているところです。具体的には、一応、絵を主に、と考えています。友人がけっこうボールペンで繊細なイラストを描くので、同じ感じの世界観の作品を創ろうと思っています。

鎌田：その友だちも1年生？

工藤：いや、美大ではなくて、中学校で仲の良かった友人とやろうと思っています。

進藤：2年生です。秋田県秋田市出身です。私はまだ、何を表現したいかとか、表現方法は分かっていなくて、探っている途中なのですけれども、私の根本的な興味として、人って多様性とか個性があると思うのですけれども、その中でも共通する部分があるなということを感じていまして。例えば感情ですとか衣食住ですとか、そういったことを、共通できる部分を、何か自分に合った表現を探して、できたらなと思っています。

私は、表現するということで生計を立てたいと思っていなくて、福祉のほうですね、今、介護の勉強をしているのですが、将来は障害者の福祉施設で働けたらなと思っています。

サークル活動のこの前の発表のときに、「うちのあかり」というところがあったと思うのですけれども、そこに参加していて、自分と違う人と会うことで、いろんな刺激をもらったりですとか、成長することがあったので、そういった環境に身を投じて、自分もまた、周りの人と一緒に成長できたら良いなと思っています。

*

(2) 八郎湖に興味を持った時期と、そのきっかけを教えてください。

三浦：小学校の頃とかに校外学習で干拓博物館に行ったことはあると思います。そのときはそこまで興味を持っていなくて、地域プロジェクト演習をやってから、とてもいろんな人が関わっているというか。昔もそうですし、今も環境を守ろうとしていろんな人が関わっていたりとか。すごく大きいものがいろいろ関わっているというか。

鎌田：大きいもの。何だろう。

三浦：愛されている場所だなと思います。

鎌田：どういうところからそう思いましたか？そう思ったのはいつ…、何かきっかけがありましたか？



三浦：それぞれ地域プロジェクト演習で関わって、はちプロとかがあるのを初めて知ったときとか。

工藤：(八郎湖の) 場所は知っていたけれど、その土地のことは何も知らなくて。

自然に触れる機会が少ないなと思って。それぞれモグリウムで、水槽の中に手を入れたりするとか、そういうのがなかったから。そういう普段やらないことができるかなという。

小学校のときとかは、別に秋田市外に出てどこかに行ったりすることも無いし、今もそんなに家族でどこかに行ったりということが無いというのも、(八郎湖に) 興味を持ったきっかけだと思います。妹がいて、妹の部活に親がつきっきりだったのもあって。

鎌田：自然に触れる機会が少ないということは、それはいつ頃から感じていた？

工藤：青森にいた頃は近くに運動公園があって、そこでみんなと遊んだりするということもけっこうあった。父の仕事上、官舎みたいなのところに住んでいて、中庭とかでみんなが集まって遊んだりしていたのですが、秋田市に来てからはもう、何にもなくて。そういう遊べる場所とか。今も住宅街に住んでいて、公園とか。小学校6年生とかになったら、もうみんなゲームとかやっていて。虫とか触ったりとか、そういうのもなかったの。

進藤：私はドキュメンタリーを観るのがとても好きで、地元の歴史的建造物のドキュメンタリーですとか。自然についてのドキュメンタリーも小さい頃から観ていたのですが、そのときに八郎湯・八郎湖の干拓のこととか、ちらっと観ていたのを覚えていて。

去年の夏くらいに、クニマスの博物館に行ったときに、人が自然に関わって起こる反応ですとか、またそれに対する人の対応とかを見て、私は、人が豊かになりたくて手を加えたのに、その結果はどうなっているのだろう、というところを見たときに、皮肉のような部分を感じてしまって。それで、はちろうプロジェクトのことを聞いたときも、ちょっとかわいそうだなという変な先入観を持って、どうなのだろうと興味を持ったので、そういうところですね。

正直に言うと、マイナス的なイメージから入っていったのですが、ここから先は、また先のインタビューで話します。

鎌田：進藤さんは最初の質問のときからだけれど、人とか社会の動きにけっこう関心がある感じなのかな？

進藤：私は2年休学したのですが、そのときにボランティア活動に参加していて。その活動柄、やはり人に会うことが多くて、それで、普通に生活できる人もいれば、精神的に壊れてしまっている人もいて。あとは、外国の方ともお話しする機会があって、その中でたくさん学ばせていただいたのですが、その中で自分はまだまだ知らないことが多いとか、(自分に) できることで他の人々が豊かになるのだったら、もっと自分を磨こうとか、そういうことを思うようになったので、そういうことがきっかけで周りに目を向けるようにはしていますね。

鎌田：障害者の福祉施設で働きたいと言っていたけれども、それもボランティアで参加して、そう思うようになったということ？

進藤：そうですけど、元々行く前から「うちのあかり」には参加していて、帰ってきてからも参加していたのですけれども、人って長期的に関われば関わるほど、見えてくる部分とか面白い部分、もちろんトラブルとか、受け入れなければならない部分もあると思うのですけれども、そこを超えたうま味というか、面白い部分があると思うので。

*

(3) はちろうプロジェクトについて知ったきっかけ、学生部に参画してみようと思った理由を教えてください。

三浦：はちプロ自体は地域プロジェクトで初めて知って。元々やはり生きものとかは好きなので、興味があって参加してみようかなと思って。

菅原：三浦君は県展（秋田県美術展覧会）に、劇画タッチの外来生物のイラストを出展していて、入賞もしましたね。

三浦：筆ペンで描いて。ブラックバスとアカミミガメとアメリカザリガニ、アライグマ、カミツキガメ、くらいですかね。

鎌田：最初の地域プロジェクト演習のときに、モグリウムのことをやりますという話をしたのだけ、確か。

菅原：はい。授業の最初の時に、はちろうプロジェクトの活動では、モグリウムの水草の植えつけと観察、「はちプロ学生部」に任意で入ってもらって、一緒に活動するというようなアナウンスをしました。

鎌田：そのときに、生きものに関われるかなということで参加してくれたということで良いのかな？

三浦：そうですね。ちょうど外来種の作品を創るときに調べて八郎湖がちらっと頭の片隅にあったので。

工藤：県立大の方と関わることができる。私は人と話すのが苦手なのですが、でも人とのつながりは増やしたいみたいなタイプなので、授業を通してはちプロ学生部に参加する学生と関われるのは人脈を広げるチャンスかなと思って、興味を持って、参加しました。



鎌田：（人脈を広げることは）できたと思う？

工藤：話したりすることはできたので。それは良かったです。
でも、県立大のことは何も知らなくて、あるということしか知らなくて。どういう人がいるのかというのを、モグリウムを設置のときに何となく雰囲気を感じられたので、良かったです。

鎌田：何回会えたっけ？県立大の人と。

工藤：2回くらい。

菅原：5月のモグリウムの見学会のときと、美大モグリウムの水草の植えつけのときの2回くらいですかね。あとは11月に八郎潟周辺を回ったとき…。

谷口：チーム86GO!の現地調査。

菅原：あのときは（この中で参加したのは）進藤さんだけだった。

工藤：そう、参加できなくて。そこが。

菅原：でも、モグリウムのホースが短くて水槽に届かないときに、バケツリレーですごくがんばったよね。

鎌田：あれはもう、若さを感じましたね。高校生も元気だったですし。私には真似できない（笑）。

コロナ禍で直接会う機会が減ってしまったのは残念でした。



進藤：私は後先考えずに飛び込んだという感じです。興味があったので参加してみたという感じです。実際に参加してみると、違う団体の人だと興味や関心が違うので、生物に対する熱量が違うなと肌で感じて。それを「違う」と思って遠ざかるのではなくて、一緒に話しあえる機会があったら、もっと知らない人でも楽しめるのかなと思いましたね。

鎌田：進藤さんは現地調査にも一緒に行きましたよね？

進藤：行きました。

鎌田：この1年間で関わった関係者の中でインパクトに残っている人はいますか？

進藤：やはり（その対象を）好きな人って、（対象を）見たら名前はすぐに出てきますし、目もすごく愛情を持ってモノを見ているので。私も、好きなことは。私はアイドルオタクだったのですが、人とか顔

とか、声とかも、聞いたらだれとかが分かるような感じだったので。

興味の対象が違うだけで、物事に対する熱量というのが理解できるので、分からない人でも楽しめるような何か、レベルを合わせたような、前はゲームでしたけれど、別の媒体があったら、みんなも八郎湖に馴染めるのではないかと思います。

*

(4) ここまで参画してきて、八郎湖にどんな魅力があると思いますか？その魅力を活かす若者向けの活動はないでしょうか？

三浦：魅力の話は先ほどの話とかぶるところもありますが、いろんな人に（八郎湖を）知ってもらうために、直接行ってほしいなと思うところがあって、夏とかに直接生きものと触れあえるような何かがあったら良いなと思いますね。ツアーみたいなかたちで。普通にしていると行く機会が全然ないので。

鎌田：やはり三浦君としては「生きもの」という感じですかね？八郎湖でいちばん面白いと思うものは。

三浦：そうですね、自分の中だと。

鎌田：生きもののどのへんが面白い？八郎湖の生きもので、これ面白いですよ、というのはある？

三浦：水生昆虫が好きですね。けっこう（環境の）きれいなところにしかいないというか、最近見られる場所がないので。田んぼとかにもあんまりいないし。八郎湖にそれを見られるというか、会えるというの、とても良いところだなと思います。ガムシとかゲンゴロウとか。タガメとかはいるのですか？

鎌田：いるらしいと、聞いたことがある。コオイムシとかなら出前授業で子どもたちと一緒に捕ったことあるよ。卵を背負っているやつ。子どもが見つけてすごく喜んでた。

三浦：見たい。

工藤：魅力は、やはり自然かなと思います。それこそホテルが見られるというのは。行けなかったですけど。PR していくというのは、仲人さんと同じ感じで、ツアーがいちばん参加しやすいかなと思いました。

谷口：もう 1 回言ってくれる？どんなツアーが参加しやすいって？

工藤：他の大学、美大や県立大以外にも、秋田大や国際教養大とかがあると思いますが、興味のある人が全くないということはないと思うので、参加しやすく、秋田駅発とかで、八郎湖に来て、とか。たぶん自力で来るとなると、やはり自分たちよりも上の年代や、車の免許を持っている人でないと厳しいということもあると思うので、参加しやすい状況を作れば良いのかなと思いました。

鎌田：工藤さんの中学・高校時代のお友だちとかで、八郎湖に行こうよって言ったらついて来てくれそうなのはいますか？心当たりは？

工藤：中学校のときに一応、科学部みたいなのがあったのですが。そういう人たちだったら、かな。私は全然違う部活で。あと、バイト先にはいろんな大学の人がいる。

進藤：自然ももちろんなのですが、自然に対する人との交わりというか、現地の人八郎湖・八郎湖をどう捉えているのかなというのも面白いなと、現地調査のときに感じました。

寺カフェ（三種町の松庵寺）のときも、八郎太郎伝説の昔話のときもそうですし、人が生活するにあたって、周りのものを意味づけしていく面白さとか、そういうものを感じましたね。知れば知るほどいろんな面白さがあるなというのが分かりました。

やはりネックになってくるのは、交通網の部分だと思うのですが、車を持っていないと（現地に行くことが）難しいというのがあるって、レンタカーするのもたぶんハードルが高いと思うので。かといってバスやタクシーといっても時間の制約があったりですとか。

なので、ツアーというのは、とてもちょうど良いものだと思って、聞いていました。それで興味を持った人たちがリピートで自分でも行けるように整備したら、もっと回転率が上がると思いますか、人の流れができるかなと思います。

どうしても、私は、興味を持てるものと持てないものという線引きがはっきりしてしまっていて、みんなのように、自然を好きになれ、と言われてできるようなものではないと思うので。なので、まずは、だれに向けて、とかを決めて、それに特化したようなものを考えていったら良いのかなと思います。私はどうしても女子大生なので、そういった年齢や性別に合ったものしか提案はできないのですが。



鎌田：その、女子大生相手の企画をやるとしたら、どういうことをやると良いと思いますか？

進藤：自分の生活をふり返ってみると、やはり情報源というのがテレビよりもスマホの SNS が多いと思うのですよね。秋田県の宣伝方法って、ほとんどインターネットで、自分で調べないと出てこないことが多いと思うのですが、スマホとか、情報収集しているときに目につきやすいような広告の打ち方をしたら、少しでも認知度が上がるのではないかなと思っています。

あとは、自分が（SNS を）見ている人が、ここに行ったよ、って投稿しているのを見ると、その人が良いよって言っていると、（投稿を見た人も）良いのかなと思うようになると思いますし。

鎌田：スマホとかインターネットとありましたが、具体的にはどういう情報源をよく使っていますか？

菅原：Instagram か、Twitter ？

進藤：そうですね。

菅原：Facebook は、みんな使わないよね。

進藤：あんまり使わない。Facebook は外国人向けだと思います。よく使っているイメージがあります。私と同じ世代の人でも使っているなと思います。

鎌田：Instagram と Twitter が、やはり自分たちの世代ではいちばん強い情報源だと思う？

進藤：そうですね。どの SNS を使うかにもよると思いますし。

鎌田：そう考えると、はちプロは若者への情報発信が弱いですね…。Twitter もろくにやっていないし、Instagram はやってもいない。ここは課題ですね。

*

(5) これから皆さんの同年代や後輩の学生たちに、八郎湖での活動に関わってもらうためには、何かあるといいと思いますか？

三浦：自分は生きものが好きだから、生きものを捕る活動があったら飛びつくのですけれど。いろんな人に興味を持ってもらうとなると、どういうのが良いのだろうな。

谷口：生きものが好きな若い人来てもらおうとすれば、どんな活動があったら行ってみたいと思う？

三浦：本当に、水に手を浸けて生きものを探すとか。そういうのがあったら行きますね。

谷口：そういうところからね。そうかそうか。そういうのあんまりないかもね。体験ができるって、ないかもしれないね。

三浦：ホテルはけっこう万人受けするというか、見たがる、興味のある人は多いのではないかなと思いますね。(7月前半の時期に) やっていたら行きます。

工藤：いちばん最初のときに、ボードを使って、ゲームを…。

鎌田：「はちリバ～HACHIRO REVIVAL～」のこと？

工藤：高校でもやってほしいという意見を出したときに、実は前までやっていたということを言っていたと思いますが、そういうのを。コロナとか、このご時世なのでアレですが、でも、そういうのをできれば良いかなと。あと、八郎湖を（最初から）前面に出すのではなくて、自然に関わる話をしながらお茶会みたいな（も



のをやって)、その延長線上に最終的には八郎潟の話になるような。そういう持って行き方ができるような機会やイベントが良いかなと思います。(八郎潟を)全面的に出してしまうと、何も知らないし、行って大丈夫かなというところも…。

鎌田：ちょっと気後れしちゃう？

工藤：そうですね。

自分たちだと、この授業を選ぶときに、最終的な目標に「八郎潟モグリウム」のロゴマークを作るというのもあったので、これをやりたいし、八郎潟も知りたいから、これをやろうみたいなのところもある。そういう流れがあれば良いかなと思います。



鎌田：ロゴマークを作るとき、どうでした？どんな感じで進めていたのですか？制作秘話的なものを聞きたいのですが。

菅原：実際に顔をつきあわせて、検討ができれば良かったのですが、新型コロナウイルス感染防止のため Zoom や Google Photo を使ってオンライン上でやりとりをしていました。学生にアイデアとして出してもらったり作ってもらったりした画像を画面共有で表示して、それにみんなが「このこういうところを一緒にしたら良いのではないか」等のコメントを付けていくというやり方でいくつかの案にまとめて、投票して選ばれたものを、提案した本人とメールでやりとりをしてブラッシュアップしながら、ロゴマークを作ってもらいました。

鎌田：やってみてどう感じていたかというところを聞いてみるのも良いですか？

工藤：水草とかプランクトン。モチーフが、ちゃんと形があるものだったから、それは、やりやすかった。

三浦：面白かった。

菅原：鎌田さんからいただいた水草やプランクトンの下敷きが役に立ったね。

三浦：あれを見ながらけっこう作った。

菅原：リアルに会って話す機会が本当になくなってしまった中で、林先生が美大に視察にいらしたときに、いくつかの案に対して「マークの中に、プランクトンと水草の世界というか、宇宙というか、そういったイメージを表現してもらえたらいいな」という研究者のかたに直接いただいたアドバイスは、すごく参考になりました。後日ミジンコのデータも送っていただいたのも助かりました。

それ(林先生の語り)を受けての、三浦君が顕微鏡で覗いたレンズの世界というのを、グラデーション

とかを使って表現してくれたのがすごく良かったと思います。

鎌田：進藤さんはどうでした？ロゴマーク。あの案はどういうふうにして？

進藤：あの案は、いただいた資料から、具体的に、具象を使って、やっても良かったのですけれども、やはりそういった生物という観点よりは、回復と言ったら変ですけれども、元あった姿に近づけようという、そういう取り組みが面白いなと思ったので、水をきれいにする感じを出したくて、ミジンコや生物を描くというよりは、私は水と、再生している感じの八郎湖をモチーフに入れて、考えてみましたね。



進藤：ふたりの話を聞いていて、やはり対面で会えないというのは、関係が深まらないなと思いました。工藤さんの話を聞いていて思い出したのが、私自身も小さい頃、家の外に出て土を掘ったりとか虫を触ったりとか、そういうふうな遊びをしたなということを思い出して。そういった、深掘りするとお互いに共通する部分が出てくると思うので、そういった題材や話題を見つけたうえで話しあったりとか、お茶会みたいなものをして、盛り上がるのではないかと思います。そこから目標を決めたら、同じ方向を向いて一緒に活動していけると思いますし、まずはお互いを知りあうところから始めて、目標を決めたら良いかなと思いました。

*

(6) 現時点で、大学卒業後の進路にはどんな希望がありますか？それは、八郎湖の活動に関わってから変化したところがありますか？

三浦：すごくぼやっとしているのですが、大枠で言うと、平面上のデザインをやりたいと思っていて。それこそロゴとかも、ちょっと興味あるのですけれど。ロゴとかウェブデザインとかポスターとか、そのへんですね。ロゴもけっこう作るのが好きで、興味があるので、これも良い経験になったと思います。地元に残りたい気持ちは大きいのですが、デザインとかをできる場所があんまりないのですよね。あるにはあるのですが。だから、そこをどうしようかなというところですね。

工藤：私は仲人さんと同じですが、高校のときも、仲人さんも同じですが、美大の附属高等学院でデザインを学んでいて。その中でロゴマークを作る機会があって、この授業もロゴマーク（を作る）というところが。

あとは、いろんなことを知るのが楽しいというか、知るべきだなと思って。今、デザインやデザイナーだけでなく、服飾とか衣装系とか、いろいろやってみたいなと思いました。

今はなるべく地元になりたいなと。秋田にいたいし、秋田でもやれることはたくさんあると思う。大学に入るときに、地元で貢献したいという気持ちもあって志望していたので、できるだけ地元で活躍できるようにがんばりたいと思っています。

進藤：私が小さいときに、自然によく関わってきたというのがあるので、(進路の)希望は関東圏なのですけれども、ちゃんと(秋田に)帰省して、自然のエネルギーをチャージしながら。私は性格的にストレスを感じやすいほうなので、自分を守りつつ、バランスを取って生きたいと考えていますし、現状に満足せず、いろんなかたと関わるうえで、いろんな刺激を受けながら学んでいきたいというがあるので、こういうふうに、はちプロの人と関わって、自然をよく学んでいるかたと話すうえで、自分と違う人ってやはりいるのだなということを再確認したので、すごく楽しかったですね。
やはり美大とかでも同じ団体とかにいと、同じ考えの人が集まってしまうので、本当に良い機会だったなと思います。

鎌田：関東圏の福祉施設を探したいなという感じ？

進藤：そうですね。インターンも受け入れが決まったので、行ってこようかなという感じです。

*

(7) ここまでのインタビューを通して気付いたこと、話せなかったことなどがあれば、教えてください。

三浦：先ほどチラッと思ったのですが、Twitter の話で、Twitter で秋田の秋田犬会館というのがめちゃくちゃウケているのですよ。犬の動画をアップして。それは、犬というパワーもあると思うのですが、生物の画像や動画をアップするのは、アリだと思います。

鎌田：どういう動画が良いと思う？八郎湖でやるとしたら。

三浦：季節も限定されると思いますけれど、モグリウムに生きものがある様子とか。オタマジャクシに足が生えましたがでも良いですし。

工藤：かわいい。

鎌田：動画のほうが良い？

三浦：短い動画のほうが良いかな。個人的にですけど。



工藤：私は今ふと思ったのですが、TikTok で、ある会社の、割と年齢のいっている 40 代後半とか 50 代の社員が面白可笑しい動画を撮って、会社のアカウントで撮って上げているというのを見るので、そういう感じで PR するのもアリかなと思います。

水族館とかも動物の、それこそ短い動画を撮って、上げたりしているので、別に何か面白可笑しいことをしなくても、短い動画を上げるのに TikTok もアリかなと思いましたね。

菅原：アオミドロだらけの水槽にエビを入れたら、(水が)きれいになったという動画をはちプロでアップしていたじゃないですか。ずっと見ているのはアシだけれど、タイムラプスみたいな感じで早回しのやつとかにすると、あれすごいと思いましたよ。エビ数匹ですよ。あんなにきれいになるのかというのが目で見て分かる。

大学生のみなさんも、情報を受信、タッチポイントというのがどこにあるのかというのに合わせて、こちらが情報発信するにはどうしたら良いのかというのを逆にアドバイスをもらうというのは良いかもしれないですね。Instagramで載せるのだったら、こういう風景が良いのではないかとかね。映えないとInstagramの場合は伸びないから。

進藤：ふたりの話を聞いていて思い出したのが、男鹿の遊覧船に昔乗ったときにすごく感動したのですが、海底に別世界が広がっていて。水中カメラとかを使って水中の様子を撮るのだけでも面白いのかなと思ってしまいました。

谷口：それはどうやって水中の様子が見えたのですか？

進藤：岩にサンゴがあって、その周りを魚が泳いでいて、それを半透明の船底から覗いたという感じなのですが、とても感動したのを覚えているので。

*

鎌田：皆さんありがとうございました。
インタビューはこれで終了とします。
今回の話をヒントに、はちプロおよび学生部の活動は来年度も続けていく予定なので、「地域プロジェクト演習」とは関係なく、今後も一緒に活動してもらえたら嬉しいです。
本日はご協力ありがとうございました。



以上